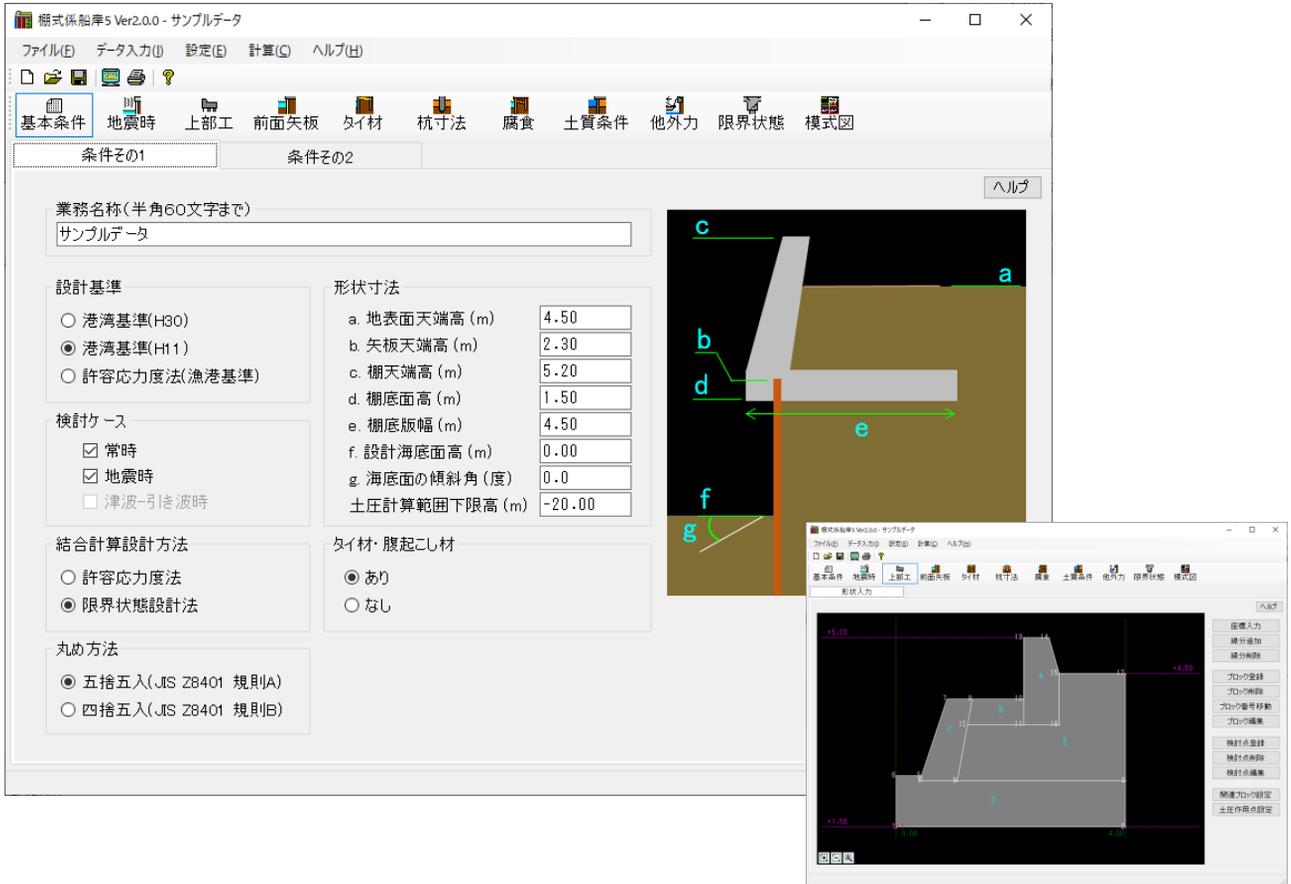


棚式係船岸5



システム概要

- 本システムは港湾基準・漁港基準に準拠し、矢板・タイ材・腹起こし材・棚部・杭部の検討を行います。
- 許容応力度法版の場合、津波引き波時の検討が可能です。
- 複数の鋼矢板・鋼管矢板でトライアル計算を行い、断面を決定します。
- タイ材・腹起こし材も同様にトライアル計算を行い、断面を決定します。
- 計算結果は報告書形式で印刷されますのでそのまま報告書として利用できます。
- Windows対応ですから、初心者でも操作が簡単にマスターできます。インストールやアンインストールも容易に行えます。

《帳票印刷の主な機能》

- ①印刷イメージを画面表示します。
- ②印刷内容の編集が可能です。
- ③一括印刷、章別印刷、指定ページの印刷が可能です。
- ④用紙サイズや印刷フォントは、お好みのものを自由に選択できます。

システムの機能

《入力・計算機能》

- ①許容応力度法、平成11年港湾基準、平成30年港湾基準（部分係数法）に対応しております。

《矢板計算部の主な機能》

- ①矢板の計算はロウの方法・フリーアースサポート法・たわみ曲線法を選択することができます。
- ②矢板は、U型・Z型・広幅型等のグループ選択も可能です。
- ③ロウの方法・フリーアースサポート法の場合、仮想支点は設計海底面・仮想海底面の選択が可能です。
- ④タイ材・腹起こし材を内部に保持し、トライアル計算を行い断面を決定します。
- ⑤土質定数を主動側・受働側の土層毎に入力できます。
- ⑥見かけの震度は、部分係数法の場合、直接入力か、荒井・横井の提案式の選択が可能です。許容応力度法の場合はそれに加え、 $\gamma / (\gamma - 1.0)$ k式、二建の提案式が選択可能です。
- ⑦見かけの震度を荒井・横井の提案式で計算する場合、矢板に動水圧を作用させることが可能です。
- ⑧矢板壁に作用する主動土圧の算定を自然崩壊角を考慮して行うことが可能です。

《棚計算部の主な機能》

- ①座標入力により任意の形状で計算することができます。
- ②その他の外力として任意の荷重を作用させる事ができます。

《杭計算部の主な機能》

- ①杭の計算には仮想固定点法、変位法を用いております。
- ②杭の種類が鋼管杭とH型鋼杭から選択が可能です。
- ③主働崩壊面からの杭の突出長は、内部で自動計算します。
- ④主働崩壊面の立ち上げ位置を矢板の計算方法により選択できます。
- ⑤地盤反力係数(Kh)を指定した計算方法により自動計算します。また直接入力も可能です。
- ⑥打込鋼管、中掘鋼管、埋込み杭での支持力の照査、負の周面摩擦が可能です。（平成30年港湾基準では打込鋼管のみ使用できます。）
- ⑦許容応力度法、限界状態設計法での杭頭部の検討が可能です。

